

住宅リフォーム促進事業、継続希望は9割にも

上越市が経済効果などで中間報告まとめる

上越市が昨年11月から取り組んでいる住宅リフォーム促進事業について、このほど中間報告をまとめ公表しました。これは建築住宅課がまとめたものです。

中間報告の「総評」では、**経済効果**については約9・5倍となつていました。補助総額は5008万円でしたが、工事総額は4億7420万円となっています。全体の申請件数のうち、もともと工事予定があつたものは280件（62・6%）、リフォーム促進事業をきっかけに工事をするにたしたケースは152件（34%）でした。約1・5倍の需要喚起につながりました。

施工業者へのアンケートより (複数回答あり)

	回答数	割合(%)
今後とも継続してもらいたい	119	60.72
少なくとも景気回復が感じられるまでは継続してほしい	65	33.16
廃止してもよい	2	1.02
どちらともいえない	10	5.1

全申請575件のうち合併前上越市は398件ですが、**世帯数で見ると実施率は、合併前上越市が0・79、合併区は0・78で、ほぼ同じでした。**

今回の事業では、施工業者の条件として、市内に本社を有する法人または住所を有する個人事業者であること、原則とし、条件付きで市外業者も対象としました。申請結果を見ると、市外業者は10業者にとどまり、市内業者に限定した効果が表れました。

受付開始までの周知期間や受付期間が短

く、お客の掘り起こしまでつながらなかったという多くの意見が市役所に寄せられました。上越市よりも取り組みが早かった糸魚川市の事例、報道などが影響して、申請者が手続きを急いだものと思われるとのことでした。市では、周知期間や受付期間について改めて検証したいとしています。

今回の事業を取り組むにあたって市役所は、申請者と施工業者からアンケートをとりました。施工業者からアンケートで、**経済対策として**

9日は**33回目の川谷冬まつり**でした。地元住民を中心に60人ほどが集まって餅つき、雪上運動会、サイの神等を楽しみました。この祭りは、地域住民が力を合わせて頑張っていくエネルギーを充電する場になっています。

まずは威勢のいい餅つき。つきあがったモチは雑煮にして参加者に配られます。杵でついた



餅つきには80代の人も



ほら、のびる、のびる...



恒例の さいの神

ての今回の補助事業をどう評価するかとの問いに、「大いに評価する」は64%、「一応評価する」が33%になりました。そして、今後どうしたいかについては、「今後とも継続してほしい」が61%、「少なくとも景気回復が感じられるまでは継続してほしい」は33%で、双方合わせると94%にもなりました。

TPP反対意見書 27 議会が採択

新潟県内の市町村議会にはJAや農民連からTPP反対の意見書を政府関係機関に提出してほしいとの請願が出されてきました。

日本共産党県委員会の調査で、これまでこの請願を採択した議会は27で、残りは上越市、加茂市、燕市の3市議会だけであることがわかりました。

モチは味も伸びもいいですね。

体育館での食事を済ませてからはグラウンドに出て雪上運動会です。私は「くす玉割り」、「宝さがし」などすべての競技に参加させてもらいました。「宝さがし」では、幸運にも川谷味噌があたりました。最後は恒例のさいの神でした。

春よ来い 第一三七回 いつでも夢を

「元気をもらおう」という言葉がぴったり年の年賀状を元日にもらいました。差出人は車イスに乗った生活を余儀なくされているM子さん。現在、三宅島在住で、一〇年ほど前から手紙のやりとりをさせていただいている女性です。

年賀状は封筒に入っていて、400字詰め原稿用紙にいっぱい書かれました。「車いすにゆめをのせて歩む」というタイトルがついていて、手書きの花飾りもあります。こういう年賀状をもらったのは初めてです。

年賀状は、「新年おめでとうございます」という言葉に続いて「人生七一年を支えてくれたお礼をこめてごあいさついたします」とあります。そのすぐ後には、M子さんの経歴が圧縮して書かれています。

小中学校は七回転校、都立の北野定時制高校を卒業した時は三二歳でした。卒業直後に日本共産党に入党しました。一九八七年五月一〇日に三宅島の漁師と結婚、だが一九九五年には右脳大出血で左半身がマヒし杖歩行に。昨年五月、今度は左脳出血して「サア、大変」、立つことも歩くこともできなくなりました。

この短い経歴を読んだだけでも大変な人生だったことがわかりますが、M子さんはどんな事態になってもいつも前向きに生きる人です。今回の年賀状でも、「紙おむつをして」特養ホームでデイホーム、ショートステイ等を利用して元気に暮らしている様子を知ることができました。

M子さんにはいつも夢があつて、やりたいことがいっぱいあります。大好きな読書、いまは日野原重明の『人生の四季』、上田マリの『折々のうた』などを読んでいるとのこと。M子さんは書くことも大好きで、いくつもの新聞に投稿しています。それだけじゃありません。大正琴も習おうと、どうも大正琴を購入したらしい。手紙の最後には「みなさんも辛いこといっぱいあるでしょうが、夢をあきらめずに歩みましようね」という文言もありました。改めてすごい人だと思いました。

もうひとつ、感心したことがあります。それはお連れ合いと妹さんから介護を受けていることをさらりと書いておられることです。お連れ合いからは現在、「はいせつから食事家事全部」をやってもらっていて、ご自身は「空と水平線をながめて」いる生活です。介護をしてくれる二人に感謝しつつ、「私ってなんと幸運な星にうまれたのでしようか」とありました。

読み終えた時、「この年賀状は表面上は普通に書いてあるが、これからの人生をしっかりと歩むためにM子さんは相当な決意をしたのではないか」と思いました。

じつは、私は、一〇数年前にも同じような感想を持った封筒入り年賀状をいただいたことがあるのです。がんと闘い、いまはもう亡くなられた新潟大学教授の古厩忠夫さんからです。この年賀状は、なんと一万字にも及ぶ長文でした。その時も、「先生の場合、おそらくがん細胞が全身をぐるぐる廻っている無宿者みたいなもので、定着しなければ悪さしないんです。それが、草履を脱いで居着くと、そこで再発ということになるんです」という主治医の言葉が書かれていてびっくりしたものです。

M子さんの家の玄関先にはいま季節はずれのハイビスカスの花が三つ咲いていると見えます。私はこの花をまだ見たことがありません。どんな花かはわかりませんが、M子さんを励ましていることだけは確かです。ぜひ一度M子さん宅を訪ねてみたいものです。

「謙信勝負飯」を食べる会が10日、吉川区内の割烹品和亭で開かれました。義を重んじた武将で、「軍神」としても知られている上杉謙信公の勝負強さにあやかって高校受験、大学受験を乗り切ろうというのがねらい。主催は市内の飲食店などがつくった謙信勝負飯昆食協議会で、地元の吉川中学3年生とその保護者など約30人が集まりました。

会では、まず新潟県文化財保護指導委員の小島幸雄さんから話をしてもらい、「上杉謙信公はどういう人か」について学びました。

小島さんは、「謙信が生きた時代の戦には『陣を張る』タイプと『城攻め』タイプの2つがあった。謙信は『城攻め』が得意の武将だったが、決して殺し合いを好む人ではなかった。戦績は69戦43勝24分2敗というが、実際にはあまり戦っていない。城を囲み、ドンパチをやるわけではなく、じつと降伏するのを待つ戦をした。自分に対してきびしい人だった」「謙信は殺し合いをするのではなく、己の欲望を抑え、己に克つことによって戦を終結させていった」「受験は人を蹴飛ばすものではなく、自分自身の問題。仲間を人間として尊重し、自分自身をきちんと鍛錬していくことが大切」などと語りました。

その後、「えい、えい、おー」と気合を入れてから「謙信勝負飯」を味わいました。

「謙信勝負飯」を食べ、受験の心構え学ぶ

「謙信勝負飯」は上越青年会議所のメンバーが食による地域おこしをねらった料理で、「お茶漬け」もしくは、そのまま食べた後に出汁をかけて食べることが約束事になっています。ほかに、お米は上越産米を使うこと、食後、梅干しを食べることも約束事になっています。食材については上越産米の使用が必須、あとはどんな食材を使おうとかまわないそうです。今回は品和亭特製の鳥の唐揚げ、オニゴシヨウ、オータムポエム、みつ葉などが入っていました。出汁は、かつお出汁でした。

私は小島さんと同じテーブルで「謙信勝負飯」をいただきました。小島さんは、品和亭特製の甘辛の鳥唐揚げを初めて食べたとのことで、「これはいいね」とべた褒めでした。この日の会は、NHKなどテレビ、新聞記者が大勢取材に来ていて、中学生のみなさんは緊張していました。

